



—東地中海地域ニュース—

ヨルダン：ザハビー首相のイラク訪問

(9月4-6日付現地各紙)

9月3日にイラクを訪問したザハビー首相はマーリキー・イラク首相と会談した後、首相府において共同記者会見を行った。ザハビー首相の発言概要他は以下のとおり。

1. ザハビー首相発言概要

- (1) ヨルダンは、イラクにおける安全及び安定の実現を支持しており、テロ行為を非難する。
- (2) マーリキー首相との会談では、ヨルダンの対イラク政策が協議された。この政策は、アブドゥラー国王の指示に基づくもので、ヨルダンはイラクの一体性及び安定、政治プロセス、イラク復興、そしてイラクのアラブ、中東地域及び国際社会の場における役割回復のために、あらゆる支援をしていくつもりである。
- (3) ヨルダン・イラク間の産業及び貿易関係をレビューした結果を踏まえ、貿易関係の強化に向けて二国間で自由貿易協定が署名された。ヨルダンにとってイラクは第一の貿易相手国であり、対イラク貿易額は約5億米ドルにのぼる。我々は、この額を今後倍増したいと考えており、両国間の人と物の動きをスムーズにするために障害を取り除く努力をしていくつもりである。
- (4) 会談では、石油問題及び対ヨルダン石油輸出量の増量についても協議された。ヨルダンとしては、イラクからの石油輸入量を現在の日量1万バレルから徐々に、あと5000ないし1万バレル増量したいと考えている。キルクーク・バニヤース間の石油パイプラインが修復されれば、ヨルダンへの石油輸送にトラックを使用する必要がなくなり、将来はより多量の石油輸入が可能となる。また、最近、イラク運輸相がヨルダンを訪問した際に、イラク・ヨルダン間の輸送に関する複数の合意が署名されており、これは両国間の運輸問題に関する継続した協力が存在することを意味している。
- (5) マーリキー首相との会談では、財政問題、停滞している債務問題、統一関税に関する合意、両国間における自由特区の設置に関しても協議され、これら問題をフォローし、可能な限り早急に解決するために財務相及び中央銀行総裁からなる委員会を創設する予定である。
- (6) 農業分野では、家畜の検疫及び法令の統一の可能性に関して合意されたことで、両国農業省の協力により、両国間の農産物及び家畜の取引が容易になる。電力分野では、リビア、エジプト、ヨルダン、イラク、レバノン、シリア及びトルコを結ぶ送電網を

建設する話については、更なる検討が必要となる。

- (7) ラマダーン明けの休暇後に、イラク国家投資委員会との共催でヨルダンのビジネスマンが参加する投資会議を開催する予定である。

## 2. その他

- (1) ヨルダンは、シリアに対し、今回の会談は以前から計画されていたものであり、(現在のイラク・シリア間の対立に関し、ヨルダンがイラクを支持しているといった) 誤解をするべきではない旨を伝えるとともに、ヨルダンは現在のイラク・シリア間の危機解消のために仲介を行う用意がある旨述べた。
- (2) ザハビー首相は 3 日夜、スレイマーニアにてタラバーニー・イラク大統領と会談し、アブドッラー国王からのメッセージを口頭で伝えた。
- (3) ザハビー首相は、今後ラマダーン明けの休暇終了後には、シリアのダマスカスを訪問する予定であり、同訪問では、ヨルダン・シリア間の国境線に関する最終合意がなされる予定である。